

<代表値>

人工乳摂取量：852mL/日

<代表値のもととなる資料>

米久保&菅野（1999）では、1995年の6月～12月にかけて、全国の乳児18,516人を対象に栄養法別の身体状況、人工乳の哺乳量、便性などを調査している。対象となった乳児は、出生体重2,500g未満を除いた健康な乳児であり、出生数に対応するような地域分布になるように選出している。月齢は、出生後の日数を30日で除し、余りがある場合は15日以内であればその月齢に、16日以上は次の月齢に入るよう設定されている。人工乳の哺乳量は、月齢別に示されており、人工乳の哺乳量は、1ヶ月目の827mL/日から増加し4ヶ月目には883mL/日となる。

人工乳哺乳量（mL/日）

	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月
N	1,402	370	1,171	701
平均値	827	865	859	883
標準偏差	148	164	154	149

出典：米久保&菅野（1999）

代表値は、月齢全体の人工乳摂取量を加重平均したものであり852mL/日となる。

<追加的情報>

米久保ら（1997）では、1992年の6～12月にかけて、乳児18,949人を対象全国規模の調査を行っている。調査方法や調査内容は上記の調査と同じである。

人工乳哺乳量（mL/日）

	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月
N	1,213	308	1,110	832
平均値	850	864	876	894
標準偏差	156	170	162	151

出典：米久保ら（1997）

<数値の代表性>

◇ 代表値の信頼性：高

一般的な判断基準に基づくと、信頼性は高い。

◇ 代表性に関する情報

代表値のもととなる資料

対象となった乳児は、出生体重2,500g未満を除いた全国の健康な乳児18,516人であり、出生数に対応するような地域分布になるように選出している。

追加的情報

出生体重 2,500g 未満を除いた乳児 18,949 人を対象とした全国規模の調査を行っており、出生数に対応するような地域分布になるように対象者を選出している。

◇ 入手できた資料の数

上記の 2 資料と土屋ら (1980), 土屋ら (1984), 土屋ら (1988), 米久保ら (1997), 山本&米久保 (1993) の計 6 資料であった。

<引用文献>

土屋文安, 山本良郎, 米久保明得, 高橋断, 浜田八重子 (1980), 栄養法別に見た乳児の発育, 哺乳量および便性に関する調査成績 (第 3 報), 小児保健研究 39 (5・6) : 252-262.

土屋文安, 山本良郎, 米久保明得 (1984), 栄養法別に見た乳児の発育, 哺乳量および便性に関する調査成績 (第 4 報), 小児保健研究 43 (6) : 618-626.

土屋文安, 米久保明得, 山本良郎 (1988). 栄養法別に見た乳児の発育, 哺乳量および便性ならびに罹病傾向に関する調査成績 (第 5 報), 小児保健研究 47 (3) : 357-362.

山本良郎, 米久保明得 (1993). 栄養法別に見た乳児の発育, 哺乳量および便性ならびに罹病傾向に関する調査成績 (第 6 報), 小児保健研究 52 (4) : 465-471.

米久保明得, 菅野貴治, 山本良郎 (1997). 栄養法別にみた乳児の発育, 哺乳量, 便性ならびに罹病傾向に関する調査成績 (第 7 報), 小児保健研究 56 (1) : 103-113.

米久保明得, 菅野貴治 (1999). 栄養法別にみた乳児の発育, 哺乳量, 便性ならびに罹病傾向に関する調査成績 (第 8 報), 小児保健研究 58 (1) : 93-103.

<更新履歴>

2007.3.30 / 文章の体裁を整えました

米国 EPA 暴露係数ハンドブックでの推奨値

米国 EPA 暴露係数ハンドブックでは, 人工乳摂取量の推奨値は設定されていないが, 人工乳摂取量に関するデータは掲載されている。Hofvander et al.(1982)では, スウェーデンの 25 人の乳児を対象としており, 月齢 1 ヶ月, 2 ヶ月, 3 ヶ月の人工乳摂取量は 713g/day, 811g/day, 853g/day となっている。Köhler et al.(1984)では, スウェーデンの人工栄養児 34 人を対象に調査している。人工乳摂取量 (Cow's formula) は, 823g/day (6 週間), 921g/day (14 週間), 818g/day (22 週間), 722g/day (26 週間) となっている。